プロジェクト

更科幸一

プロジェクトは学園長直轄の組織である。学園長が「キリスト教育」「自由について考える」「生活から学ぶ」「ごちゃまぜの学び」の 4 つのグループを設定し、教職員の立候補によってメンバーが配置されている。初年度である今年は、各チームメンバーが各自の時間を使ってさまざまな思考と実践を積み重ねてきた。このプロジェクトの実働期間は 3 年間（2025～2027 年）の予定で、3 年後に何か明確な成果を出さなくてはいけない、という縛りはない。しかし、何かがしたい、というその双方のゆらぎの中にあるのが現在地である。

今後はプロジェクトメンバー以外の教職員をはじめとする学園の構成員を巻き込みながら、実践に落とし込んでいく段階となる。具体的には、部長会とのつながりをより発展させ、プロジェクトが部長会へ提案をしていくことで、民主的な社会を築いていければと考えている。月 1 回の各プロジェクトの会議は、必ずお祈りから始めている。私たち人間が精いっぱい取り組むが、最後は神様の御手にゆだね、導いていただく。この姿勢を堅持しつつ、次年度の活動へとつなげたい。

キリスト教育

菅原然子

自由学園の教育は、キリスト教を土台としている。では、具体的にどのような実践をもってそれを実現していくのか。プロジェクト初年の今年は、創立者存命の時代から現在までの、自由学園におけるキリスト教育の歴史的経緯を学ぶことと、各部の現状を共有することを主に行った。

Ⅰメンバー

キリスト教育プロジェクトのメンバーは以下である。

・稲村（初等部）、木村（高等部）、高田（高等部）、村上（図書館資料室）、菅原（同）

・オブザーバー

佐藤、藤、藤原、松元（以上広報室）

・統括メンバー

入海、更科、松坂、山本

Ⅱ会議開催

本年度は以下の日程で、10 回の会議を持った。

会議は毎回12:30～14:00に実施した。

①2025 年 4 月 4 日（キックオフ）

②4 月 25 日

③5 月 23 日

④6 月 6 日

⑤7 月 4 日

⑥9 月 12 日

⑦10 月 24 日

⑧11 月 21 日

⑨2026 年 1 月 16 日

⑩2 月 13 日

Ⅲ会議内容

＜学び＞

A.過去の歴史から自由学園とキリスト教について学ぶ

テキストと発表担当者

【創立者存命時代】

■村上民「自由学園草創期におけるキリスト教と「自由」問題（1）松岡もと子、羽仁吉一の青年時代とキリスト教との出会い」

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jiyu/5/1/5_22/_article/

-char/ja(担当:稲村)
■村上民「自由学園草創期におけるキリスト教と「自由」問題(2)羽仁もと子、吉一の出版事業とキリスト教との関わり」https://www.jstage.jst.go.jp/article/jiyu/5/1/5_36/_article/-char/ja(木村)
■村上民「自由学園草創期におけるキリスト教と「自由」問題(3)羽仁夫妻の「信仰の事業」としての自由学園創立とそのキリスト教」https://www.jstage.jst.go.jp/article/jiyu/5/1/5_61/_article/-char/ja(髙田)
【創立者最晩年期～羽仁恵子学園長時代】
■『自由学園一〇〇年史総論論章((26-28、40-43頁)、総論第五章、六章(130-187 頁)　(村上)
【羽仁翹学園長時代～現在】
■古屋安雄「羽仁もと子と河井道 教会と学校」キリスト教文化学会編「プロテスタント人物史」(421～436 頁)
■『自由学園一〇〇年史』総論第七章(188-191 頁)、第八章(237-240 頁)
■古屋安雄・渡善子 座談会「われわれ自身のなかの黒人問題」『自由人』1968 年
■有賀寛「私とキリスト教」『自由人』1980 年　(以上菅原)

そのほか扱ったテキスト
■キリスト教学校新聞 786 号(2025 年9月15日)
■佐藤瑞彦『自治の生活教育』(「初等部教育におけるキリスト教について～初代主事の佐藤瑞彦の文献等から考える～」(担当　稲村)

B.礼拝について(担当:松坂)
　礼拝について、松坂より以下の講義があった。
「礼拝は、主と主の民の響き合うこだまで、キリストの十字架の赦しをもって招かれ、感謝と喜びをもって応え、主のみことばによるみこころを受け止め、主の復活の命のうちに遣わされていくものだとすると、学園の礼拝は、まさに礼拝ですね。前奏は、礼拝者を日々の生活から神のみ前に招き入れる役割を担い、後奏は、それぞれの場所へと派遣する役割を担っています。賛美をお受けになる神は、その賛美を住まいとされます(詩編22:3)。賛美もなかなか主体的ですし、聖書朗読の交読や日番の発言などに、響き合うこだまを感じます。
　礼拝の雰囲気も、参加者の足取りも軽く、明るく感じます。」
　これらの内容を受けて、讃美歌はゴスペルも含むか？、聖書・讃美歌の選定をどのように考えるか、等について議論した。

＜その他議題＞
C.各部の礼拝に参加する
　普段は、自分の所属の部の礼拝に出席しているが、他部の礼拝やお話し会にも参加してみては、との提案があった。資料室員 2 名は、中高大の礼拝に曜日ごとに参加し、担当者にお願いしていくつかの内容は記録として保存した。プロジェクトでこれらを編纂して学内共有したいとの希望が出たが、統括メンバーから反対意見が出たため実現はしていない。
　また、職員が水曜の合同礼拝に参加できるよう(自由参加)総務部労務担当者との調整を行い、可能との結論を得た。All メールにて合同礼拝の予定を職員にも伝えた。

D.奏楽担当者への働きかけ
　現在、礼拝の奏楽は生徒有志によって担当されているが、讃美歌の伴奏をはじめとした奏楽は、ただ楽譜通り弾ければよいわけではない。奉仕者としての心持ちや、讃美のリードなど、宗教的背景も加味しながらこれまで音楽科の先生が丁寧に指導して下ってきた。しかし近年、担当の先生の勤務日数が減ったことや生徒自身の生活が忙しくなったため、十分にその時間が確保できていない問題がある。キリスト教を土台とする学園であるならば、こうした時間をきちんと確保できないか(制度的、予算的両面において)。
⇒検討継続中。

E.生徒担当の礼拝について
　中等部、高等部共に、週 1 回ほど生徒が礼拝を担当する。その際の奉仕がよりよいものとなるよう、教職員ができることは何かを話し合った。

F.メンバー参加の研修報告
■第 26 回キリスト教学校伝道協議会」(2025 年 5 月 17 日)木村
■キリスト教学校教育同盟第 70 回東日本小学校教職員協議会(6 月 21 日)稲村、村上
■キ同盟中堅教員リトリート(8 月 4～6 日)　稲村

■キ同盟第 58 回聖書科研究会(7 月 31 日～8 月 2 日)
北海道クリスチャンセンター、ウポポイ　菅原
■キ同盟中小規模学校研修会(8 月 25～26 日)　同志社
山本

G.礼拝連絡会との連携
学期に 1 回程度、礼拝連絡会の会議を行っている。礼拝連絡会は、2024 年度まで行っていた「拡大 TLP 教科部会」の名前を変えて継続しているものである。各部から、礼拝の担当者が参加し、礼拝に関する事項について話し合う。そこへプロジェクトメンバーも参加することとした。

H. 広報活動におけるキリスト教の扱い
数年前までは意識的にキリスト教の学校であるということが事前に知らされないまま(学校紹介パンフレット等)、生徒が知らずに入学してくることがあった。現在は創立理念や創立者について扱う頁があるため、周知は行われているが、キリスト教を土台とする学校である、ということをどのように入学希望者へ伝えていくかは検討が必要である。

2025 年度総括
今年度は 1 年目ということもあり、特に学びについて重点的に行った。これは、キックオフの際にとりまとめの菅原よりメンバーへ提案したことで、賛同を得て実現した。
課題論文または図書を事前に読み、担当者がレジメをまとめて配布、内容を発表し、感想等を話し合う形をとった。特に、今後のことを考えるために、歴史的経緯を把握する必要性は高く、関連論文や『自由学園一〇〇年史』をテキストとして扱った。今後の議論の土台となることを確認できたと捉えている。
一方、現在も各部で礼拝の時間がまもられており、いくつかの課題が共有されてきた。学園では、キリスト教徒かどうかは関係なく、本務教員は全員礼拝を担当している。その回数が多いと、日常業務との兼ね合いもあり負担感が増すことは礼拝連絡会でも共有された。今後、担当者の幅を広げられないか、なども検討課題となるであろう。教職員が礼拝を担当することについては、キリスト教学校教育同盟の研修で、特定の者(たとえばクリスチャン教員のみ)だけが担当する形になると、その人に全てお任せになる傾向があり、また、そもそもキリスト教人口の少ない日本においてクリスチャン教員のみが礼拝を担当することは徐々に厳しくなってきていることがうかがえた。キリスト教の精神を組織構成員である教職員がどのように内化していくかを考えたときに、礼拝を担当する際に聖書や讃美歌に丁寧に向き合いつつ、誠実に準備し、内容を理解しようとすることそのものが、キリスト教に触れ、その精神を学ぶ時間となっている、とも考えられる。
メンバーからは、研修などの必要性も挙げられたが、今のところは実現可能性がたっていない。次年度以降、こうした宗教関係の事項について検討する組織(現在は礼拝連絡会やこのプロジェクトがそれらにあたっている)の検討なども課題となる。

(※すべての会議について議事録の保存あり。学内限定公開。)